

四半期報告書

(第69期第2四半期)

トミタ電機株式会社

鳥取県鳥取市幸町123番地

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を、金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し、提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と併せて提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	5
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	18
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	19

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 中国財務局長

【提出日】 2019年9月13日

【四半期会計期間】 第69期第2四半期(自 2019年5月1日 至 2019年7月31日)

【会社名】 トミタ電機株式会社

【英訳名】 TOMITA ELECTRIC CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 神谷 哲郎

【本店の所在の場所】 鳥取県鳥取市幸町123番地

【電話番号】 0857(22)8441(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 神谷 陽一郎

【最寄りの連絡場所】 鳥取県鳥取市幸町123番地

【電話番号】 0857(22)8441(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 神谷 陽一郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第68期有価証券報告書より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第68期 第2四半期連結 累計期間	第69期 第2四半期連結 累計期間	第68期
会計期間		自2018年2月1日 至2018年7月31日	自2019年2月1日 至2019年7月31日	自2018年2月1日 至2019年1月31日
売上高	(千円)	732,242	532,934	1,420,403
経常損失(△)	(千円)	△13,782	△102,185	△115,989
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純損失(△)	(千円)	△10,273	△104,898	△117,149
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	△42,769	△128,402	△151,864
純資産額	(千円)	3,529,988	3,294,036	3,422,483
総資産額	(千円)	4,465,662	4,187,365	4,353,058
1株当たり四半期(当期)純損失金額 (△)	(円)	△15.58	△159.06	△177.62
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	79.0	78.7	78.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△50,720	△9,922	△127,674
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△18,690	△18,298	△40,769
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△5,461	△5,797	△11,155
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,239,361	1,093,545	1,136,959

回次		第68期 第2四半期連結 会計期間	第69期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 2018年5月1日 至 2018年7月31日	自 2019年5月1日 至 2019年7月31日
1株当たり四半期純損失金額(△)	(円)	△21.60	△98.98

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、当社グループは、前連結会計年度において営業損失1億1千4百万円及び経常損失1億1千5百万円、親会社株主に帰属する当期純損失1億1千7百万円となりました。また、当第2四半期連結累計期間においては、営業損失1億2百万円及び経常損失1億2百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失1億4百万円を計上する結果となったことにより、継続企業の前提に関する注記を開示するまでに至りませんが、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しております。

当該重要事象等の解消及び経営基盤の安定化への対応策を、「2「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」(6)重要事象等についての分析、検討内容及び解消、改善するための対応策について」に記載しております。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におきましては、米中貿易摩擦による中国経済の悪化と長期化、更にそれに関連する国内電子産業の低迷といった影響を、中国ならびに国内市場において、まともに受けております。

米中関係は改善方向に向かい年後半からは世界経済は再び堅調に推移するものと予想しておりましたが、それが全く逆の方向に進み、事業環境において先行きに不透明感が増しました。

当電子部品業界といたしましては、車載関連、スマートフォンやこれまで好調だった半導体製造装置関連、産業機器関連、ICT関連等多くの分野の需要が伸び悩み、全体として低調な推移となりました。

このような市場環境の中で当社グループは、小型フェライトコア並びにコイル・トランス製品を中心とした拡販活動を国内外市場で積極的に展開いたしました。また、海外での製造原価低減と品質改善に取り組み、世界競争に打ち勝つことの出来る高性能で高品質の製品を生産すべく活動を続けてまいりました。

当第2四半期連結累計期間のフェライトコア販売、コイル・トランス販売は国内外市場で減少し、売上高は5億3千2百万円(前年同四半期比27.2%減)となりました。

損益面では、生産及び検査設備の自動化、更新等生産効率の向上による原価の低減ならびに、経費等の削減に努めましたが、営業損失は1億2百万円(前年同四半期は1千6百万円の営業損失)となりました。経常損失は1億2百万円(前年同四半期は1千3百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億4百万円(前年同四半期は1千万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 電子部品材料事業

当第2四半期連結累計期間のフェライトコア販売、コイル・トランス販売は国内外市場で減少し、売上高は4億9千7百万円(前年同四半期比28.7%減少)となり、セグメント損失は1億2千6百万円(前年同四半期は4千万円のセグメント損失)となりました。

② 不動産賃貸事業

当事業の売上高は3千5百万円(前年同四半期比2.3%増加)となり、セグメント利益は2千3百万円(前年同四半期比0.6%減少)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億6千5百万円減少し、41億8千7百万円となりました。このうち、流動資産は20億9千4百万円、固定資産は20億9千2百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて3千7万円減少し、8億9千3百万円となりました。このうち、流動負債は1億5千9百万円、固定負債は7億3千4百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億2千8百万円減少し、32億9千4百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ4千3百万円減少し、10億9千3百万円(前第2四半期連結会計期間末残高は12億3千9百万円)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって減少した資金は、9百万円(前年同四半期は5千万円の減少)となりました。これは主に、売上債権の減少による資金の増加があった一方で、税金等調整前四半期純損失を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって減少した資金は、1千8百万円(前年同四半期は1千8百万円の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって減少した資金は、5百万円(前年同四半期は5百万円の減少)となりました。これは主に、リース債務の返済による支出によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2千5百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 重要事象等についての分析、検討内容及び解消、改善するための対応策について

当社グループは、1「事業等のリスク」に記載のとおり、継続企業の前提に関する注記を開示するまでに至らないものの、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しております。

当該重要事象等を解消し、経営基盤の安定化に向け以下記載のとおり取り組んでおります。

- ・当社グループは、昨年12月に中国の製造工場が自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格 I A T F 1 6 9 4 9 を認証取得いたしました。これにより全世界の車載市場へ向けて更に積極的な営業活動を展開してまいります。また、5 G、E V、A I、I o T、産業機器、医療機器における国内外市場での新規開拓に向け、中国・香港・欧州営業窓口と共に販売拡大を図りながら、海外生産工場の継続的な品質改善や経費削減に向けた取り組みを推進し、利益重視の体制を強化してまいります。

① 5 G、E V、A I、I o T、車載、産業機器、医療機器関連の新規受注獲得

② 原価低減に向けた品質改善と省力化、自動化の推進

③ 高信頼性、高効率化を目的とした材質開発の推進

- ・研究開発においては、フェライトに関しては、新材質開発、既存材質の改良を行い、フェライトコアの最適設計に採用し市場ニーズに即した優れた材質を提供しております。また、コイル・トランスは、回路の高密度化・高集積化に伴い小型・効率化に向け、自社製フェライトとの融合に取り組んでおります。今後の新製品、新技法については5 G、E V、A I等の先端分野からI o Tへの応用、並びに電子機器の小型化・高機能化・高周波化に伴う高精度・高性能・広帯域温度特性フェライトコア、省エネ対応として更なる低損失・高飽和磁束密度・高透磁率フェライトコアの開発・改良等を進めております。また製造方法におきましても、フェライトコアの成型技術・焼成技術・精密加工技術の高度化、低コストの製品設計、試作期間の短縮などを図り顧客の開発スピードアップに寄与いたしております。

更には、車載用コンバータートランス、トランスポンダーコイル、センサーコイル、医療用電源トランス、産機用センサーコイル、各種SMDトランス開発等、製品領域の拡大に取り組んでおります。

当社グループといたしましては、経営基盤の安定化に向けた施策を推進し、今後、利益重視の体制強化により、当該事象又は状況の解消を図ってまいります。以上を遂行することにより、継続企業の前提に関する重要事象等を解消できるものと考えており、継続企業の前提に関する不確実性は認められないものと判断しております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,600,000
計	1,600,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年9月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	816,979	816,979	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	816,979	816,979	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月31日	—	816,979	—	1,966,818	—	1,239,181

(5) 【大株主の状況】

2019年7月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に対 する所有株式数の 割合(%)
プランニングカミヤ株式会社	鳥取県鳥取市興南町68	129,412	19.62
神谷 哲郎	鳥取県鳥取市	74,882	11.35
上田 満	神奈川県藤沢市	39,900	6.05
BNY GCM CLIENT A CCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (株式会社三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 1 33 FLEET STREET LOND ON EC4A 2BB UNITED K INGDOM (東京都千代田区丸の内2-7-1)	31,700	4.80
株式会社山陰合同銀行 (資産管理サービス信託銀行株式 会社)	島根県松江市魚町10 (東京都中央区晴海1-8-12晴海アイラン ドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	23,360	3.54
水元 公仁	東京都新宿区	22,000	3.33
神谷 幸之助	東京都目黒区	19,500	2.95
久保田 正明	神奈川県小田原市	18,000	2.72
神谷 滋	東京都中野区	12,304	1.86
チルダース トーマスハミルトン	兵庫県神戸市中央区	12,100	1.83
計	—	383,158	58.09

(注) 当社は自己株式157,481株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 157,400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 656,800	6,568	—
単元未満株式	普通株式 2,779	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	816,979	—	—
総株主の議決権	—	6,568	—

(注) 「単元未満株式」欄には自己株式 81株が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
トミタ電機株式会社	鳥取県鳥取市幸町123番地	157,400	—	157,400	19.26
計	—	157,400	—	157,400	19.26

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年5月1日から2019年7月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年2月1日から2019年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、アスカ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,136,959	1,093,545
受取手形及び売掛金	403,170	293,354
商品及び製品	201,814	215,393
仕掛品	271,998	282,915
原材料及び貯蔵品	207,419	182,974
その他	36,083	26,643
貸倒引当金	△575	△293
流動資産合計	2,256,871	2,094,533
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	190,797	184,852
機械装置及び運搬具（純額）	64,569	72,199
土地	1,715,312	1,715,312
リース資産（純額）	7,995	12,418
建設仮勘定	8,642	7,599
その他（純額）	6,407	5,771
有形固定資産合計	1,993,724	1,998,152
無形固定資産	58,931	52,699
投資その他の資産		
投資有価証券	40,392	39,168
長期前払費用	1,985	1,658
その他	1,152	1,152
投資その他の資産合計	43,531	41,979
固定資産合計	2,096,187	2,092,832
資産合計	4,353,058	4,187,365

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	61,509	41,464
未払法人税等	12,689	10,218
未払費用	81,458	54,088
受注損失引当金	226	121
賞与引当金	14,550	24,728
前受収益	498	498
その他	26,405	27,977
流動負債合計	197,337	159,097
固定負債		
繰延税金負債	1,559	731
再評価に係る繰延税金負債	204,932	204,932
退職給付に係る負債	34,662	32,143
役員退職慰労引当金	305,325	312,123
長期前受収益	13,060	12,811
預り保証金	150,717	148,326
その他	22,979	23,162
固定負債合計	733,238	734,231
負債合計	930,575	893,329
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,966,818	1,966,818
資本剰余金	1,330,934	1,239,181
利益剰余金	113,694	100,548
自己株式	△227,404	△227,448
株主資本合計	3,184,042	3,079,100
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,582	△2,978
土地再評価差額金	311,550	311,550
為替換算調整勘定	△70,527	△93,635
その他の包括利益累計額合計	238,440	214,936
純資産合計	3,422,483	3,294,036
負債純資産合計	4,353,058	4,187,365

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年2月1日 至2018年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年2月1日 至2019年7月31日)
売上高	732,242	532,934
売上原価	514,583	417,725
売上総利益	217,659	115,209
販売費及び一般管理費	* 233,842	* 217,555
営業損失(△)	△16,183	△102,346
営業外収益		
受取利息	190	194
受取配当金	1,141	852
助成金収入	592	489
金型売却益	724	980
スクラップ売却益	53	22
為替差益	0	—
雑収入	279	614
営業外収益合計	2,983	3,153
営業外費用		
支払利息	461	446
為替差損	—	1,905
製品補償費用	2	249
雑損失	118	390
営業外費用合計	582	2,992
経常損失(△)	△13,782	△102,185
特別利益		
投資有価証券売却益	6,173	—
特別利益合計	6,173	—
特別損失		
固定資産除却損	110	204
特別損失合計	110	204
税金等調整前四半期純損失(△)	△7,720	△102,389
法人税、住民税及び事業税	2,553	2,508
四半期純損失(△)	△10,273	△104,898
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△10,273	△104,898

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年2月1日 至2018年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年2月1日 至2019年7月31日)
四半期純損失(△)	△10,273	△104,898
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,282	△396
為替換算調整勘定	△23,212	△23,107
その他の包括利益合計	△32,495	△23,504
四半期包括利益	△42,769	△128,402
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△42,769	△128,402
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△7,720	△102,389
減価償却費	17,275	19,518
長期前払費用償却額	—	327
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△421	△282
賞与引当金の増減額 (△は減少)	8,611	10,178
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	△288	△105
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	4,870	△2,518
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	6,797	6,797
受取利息及び受取配当金	△1,332	△1,047
為替差損益 (△は益)	190	719
支払利息	461	446
固定資産除却損	110	204
投資有価証券売却損益 (△は益)	△6,173	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△20,132	104,997
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△18,718	△8,425
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△7,105	6,841
仕入債務の増減額 (△は減少)	6,456	△19,258
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△19,217	△22,445
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△984	△1,352
小計	△37,319	△7,794
利息及び配当金の受取額	1,336	1,051
利息の支払額	△461	△446
法人税等の支払額	△14,275	△2,732
営業活動によるキャッシュ・フロー	△50,720	△9,922
投資活動によるキャッシュ・フロー		
預り保証金の返還による支出	△2,838	△2,838
有形固定資産の取得による支出	△30,567	△15,460
投資有価証券の売却による収入	14,715	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,690	△18,298
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△126	△44
リース債務の返済による支出	△5,334	△5,752
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,461	△5,797
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10,988	△9,395
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△85,860	△43,414
現金及び現金同等物の期首残高	1,325,222	1,136,959
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,239,361	※ 1,093,545

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(厚生年金基金の解散及び移管について)

当社が加入しております「全国電子情報技術産業厚生年金基金」は、2017年12月5日に開催された代議員会の決議に基づき解散認可を申請し、厚生労働大臣より2018年3月31日付で基金解散が認可され、2018年4月1日付で新たな後継制度として設立した企業型年金制度（電子情報技術産業企業年金基金）へ移行しております。

なお、当解散による追加負担の発生はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)
荷造運賃	30,630千円	27,020千円
支払手数料	19,211	20,230
役員報酬	15,954	15,954
給料	76,508	82,979
賞与	1,918	841
賞与引当金繰入額	7,200	5,028
貸倒引当金繰入額	△76	△282
退職給付費用	3,719	1,322
役員退職慰労引当金繰入額	6,797	6,797
法定福利費	7,274	7,153
減価償却費	5,624	5,264

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)
現金及び預金勘定	1,239,361千円	1,093,545千円
現金及び現金同等物	1,239,361	1,093,545

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年2月1日 至 2018年7月31日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年2月1日 至 2018年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	電子部品材料 事業	不動産賃貸 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
売上高					
外部顧客への売上高	697,902	34,339	732,242	—	732,242
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	697,902	34,339	732,242	—	732,242
セグメント利益 又はセグメント損失(△)	△40,271	24,088	△16,183	—	△16,183

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	電子部品材料 事業	不動産賃貸 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
売上高					
外部顧客への売上高	497,814	35,120	532,934	—	532,934
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	497,814	35,120	532,934	—	532,934
セグメント利益 又はセグメント損失(△)	△126,287	23,940	△102,346	—	△102,346

(注) セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年7月31日)
1 株当たり四半期純損失金額(△)	△15円58銭	△159円06銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△) (千円)	△10,273	△104,898
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△) (千円)	△10,273	△104,898
普通株式の期中平均株式数(株)	659,589	659,508

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年9月13日

トミタ電機株式会社
取締役会 御中

アスカ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 若尾典邦 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 石渡裕一朗 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトミタ電機株式会社の2019年2月1日から2020年1月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年5月1日から2019年7月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年2月1日から2019年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、トミタ電機株式会社及び連結子会社の2019年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2019年9月13日
【会社名】	トミタ電機株式会社
【英訳名】	TOMITA ELECTRIC CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 神谷 哲郎
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	鳥取県鳥取市幸町123番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長神谷哲郎は、当社の第69期第2四半期（自 2019年5月1日 至 2019年7月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。